

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代 表 者 氏 名	清水由紀 江尻桂子	所 属	早稲田大学（清水） 茨城キリスト教大学（江尻）
研究会等名称	発達心理学基礎研究検討会〔通称：土曜研〕		
成 果 概 要	1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください） 延期のため無し 2) 集会等の目的・成果等 ① 目的 - 本研究会では発達心理学研究の中でも、特に実証的研究、データに基づく実験・観察・調査研究に重点をおくものである。これまで年に1～2回の頻度で研究会を開催し、最新の研究成果の報告および、それについての参加者との議論を行ってきた。 - ホームページを開設し、これまでの成果（開催概要）および今後の開催予定について掲示している。 http://doyouken.jimdo.com/ ② 成果 2020年度は下記の通り、第32回定例研究会を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、延期することとした。 - 日時：2020年6月27日 13:00-16:00 - 場所：お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ4階 同窓会コモンズ共用室A - 発表者1：齋藤慈子先生（上智大学） タイトル：「赤ちゃんはかわいい！」は本当か？— 子どもの認知を左右する要因 要旨：昨今のニュースなどから、いつでも誰でも、母親であっても、必ずしも「赤ちゃん＝かわいい」ではないことがうかがえる。状況や人によって、赤ちゃんがかわいいと思えたり、思えなかったりするのはなぜか。本発表ではこの問いに答えるべく、子どもへの世話行動の適応論的な要因とメカニズム的な要因について説明した後、乳幼児の顔写真に対する母親と大学生の評定・印象データや、親でもある保育士の保育と子育てに関する語り等を紹介し、見る側の状態・条件が、子どもの認知の仕方にどう影響を与えるのかを考察する。 - 発表者2：伊村知子先生（日本女子大学） タイトル：児童期の視覚認知と選好判断 要旨：これまで、ヒトの乳幼児や児童の基本的な視覚機能の発達をチンパンジーとも比較しながら、視覚機能の普遍的な特性と人間固有の文化・社会的影響について比較認知発達のアプローチから調べてきた。本発表では、ヒトが感じる視覚的な選好や魅力の個人差や普遍性を明らかにするため、児童期の子どもの絵画の色彩に対する選好を成人と比較した結果を報告する。また、子どもが、写真やテレビなどの「古典的」メディアや、近年急速に普及した拡張現実（AR）技術などの新奇なメディアから、対象の本物らしさや価値をどのように評価しているかを示した研究も紹介する。 3) 将来の計画： - これまでと同様、年に1～2回の定例研究会を開催する。		

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">▪ 研究会の開催スタイルとしては、発達心理学（基礎研究）における新進気鋭の研究者をゲストスピーカーに迎え、最新の研究成果について発表いただき、その発表内容について、参加者らで議論を行う。▪ 研究会の将来目標は次の二点である。 <ol style="list-style-type: none">① 異なる研究機関に所属する研究者同士の交流の増進を図るとともに、研究者間・研究機関間のネットワーク形成および学術情報の共有の場を提供する。② 研究会活動を通して、日本の発達心理学研究における若手研究者の支援と交流の活性化を目指す。 |
|--|---|

以上

(様式5)

2021年3月22日

日本心理学会研究会 2020 年度会計報告書

研究会名称 発達心理学基礎研究検討会〔通称：土曜研〕

研究会番号 研

助成金額 ¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2020年11月19日	会場料（お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ4階 同窓会コモンズ共用室A）	¥4,000
2021年3月22日	返金（日本心理学会）	¥26,000

支出合計 ¥30,000